



ピットレジン
RYUSEI COMMUNITY, INC


安全データシート - JIS Z 7253 : 2019 準拠

Version No: 3.00.0.1

発行日: 2025.10.01

セクション1 化学品及び会社情報

製品に関する情報

製品名	ピットレジン	
関連商品	品番	商品名
	942	ピットレジン
	921	5ステップウインドリペア 消耗品キット(12か所分)
	556	5ステップウインドリペア エコ6消耗品Ⅱ
外観		

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途	自動車用ウインドウガラス キズ補修用UVレジン(最終工程用)
------	--------------------------------

供給者の詳細

製造者

供給者の会社名称	株式会社 隆成コミュニティ
所在地	千葉県市原市辰巳台西一丁目2-10
電話番号	0800-805-6655
FAX番号	0436-26-6655
ホームページ	https://ryusei-usa.com/
e-メール	contact@ryusei-usa.com

セクション2 危険有害性の要約

化学物質又は混合物の分類

健康に対する有害性	急性毒性	区分に該当しない
	皮膚腐食性／刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分1
	呼吸器感作性または皮膚感作性	区分1 (皮膚感作性)
	生殖細胞変異原性	区分2
	発がん性	区分に該当しない
	生殖毒性	区分に該当しない
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分3(気道刺激性)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分に該当しない
	吸引性呼吸器有害性	区分に該当しない
環境に対する有害性	水生環境有害性(急性)	区分2
	水生環境有害性(慢性)	区分2

GHSラベル要素

絵表示:	
注意喚起語	危険

危険有害性情報

H315	皮膚刺激
H317	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
H318	重篤な眼の損傷
H335	呼吸器への刺激のおそれ
H341	遺伝性疾患のおそれの疑い
H401	水生生物に毒性
H411	長期継続的影響により水生生物に毒性

注意書き: 安全対策

P200	使用前に取扱説明書を入手すること
P202	全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと
P261	粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること
P264	取扱後は良く手を洗うこと
P271	屋外または換気の良い場所でのみ使用すること
P272	汚染された作業衣は作業場から出さないこと
P273	環境への放出を避けること
P280	保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること

注意書き: 応急措置

P302+P352	皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと
P304+P340	吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること
P305+P351+P338	眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること
P308+P313	曝露または曝露の懸念がある場合：医師の診察/手当を受けること
P312	気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること
P333+P313	皮膚刺激又は発しんが生じた場合：医師の診察／手当てを受けること
P337+P313	眼の刺激が続く場合:医師の診察/手当を受けること
P362+P364	汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること
P391	漏出物を回収すること

注意書き: 保管(貯蔵)

--	--

注意書き: 廃棄

P501	内容物/容器を国際、国、都道府県、又は市町村の規則に従って、認可を受けた有害または特別廃棄物処理場に廃棄すること
------	--

セクション3 組成および成分情報

物質

混合物の組成については、以下のセクションを参照してください

混合物

成分名	CAS番号	官営公示整理番号		%[重量]
		化審法	安衛法	
メタクリル酸2-ヒドロキシエチル	868-77-9	2-1044	情報なし	<45
アクリル酸イソボルニル	5888-33-5	4-1552	7-2-96	<45
2-[[3-(トリメトキシシリル)プロポキシ]メチル]オキシラン	2530-83-8	2-2071	情報なし	<10
※具体的な化学物質の特定、組成濃度については企業秘密とします。				

セクション4 応急措置

必要な応急措置の説明

吸入した場合	<ul style="list-style-type: none">・ 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること・ 気分が悪い場合は医師の診断、手当てを受けること。 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状： <ul style="list-style-type: none">・ 咳・ 咽頭痛
皮膚に付着した場合	<ul style="list-style-type: none">・ 皮膚に付着した部分を多量の流水と石鹼で洗浄すること・ 皮膚刺激が持続する場合には、医師の診断を受けること 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状： <ul style="list-style-type: none">・ 発赤
眼に入った場合	<ul style="list-style-type: none">・ 流水で15分～20分間洗浄すること(できればコンタクトレンズを外す)・ 眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状： <ul style="list-style-type: none">・ 発赤
飲み込んだ場合	<ul style="list-style-type: none">・ 水で口をすすぐこと(吐かせないこと)・ コップ1杯の水を飲ませる・ 気分が悪い時は、医師の診断、手当を受けること 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状： <ul style="list-style-type: none">・ 咽頭痛・ 吸引性呼吸器有害性
医師に対する特別な注意事項	対症療法を行うこと

セクション5 火災時の措置

消火活動に関する情報

消化剤	<ul style="list-style-type: none">・ 水噴霧・ 粉末消火剤・ 炭酸ガス
使ってはならない消火剤	棒状放水

特有の危険有害性

火災の際に避けるべき条件	データ無し
--------------	-------

消火活動に関する情報

特有の消化方法	<ul style="list-style-type: none">・ 火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する・ 延焼の恐れのないよう水スプレーで周囲のタンク、建物等の冷却をする・ 消火活動は風上から行う・ 火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する・ 危険でなければ火災区域から容器を移動する
火災及び爆発の危険性	燃焼時、以下の燃焼生成物が発生することがあります： <ul style="list-style-type: none">・ 刺激性の黒煙・ 一酸化炭素(CO)・ 二酸化炭素(CO2)・ 窒素酸化物(NOx)・ ケイ素酸化物(SiO)
消火を行う者の保護	・ 消火作業の際は、適切な自給式の呼吸器用保護具、眼や皮膚を保護する防護服(耐熱性)を着用する

セクション6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

セクション8を参照

環境に対する注意事項

セクション12を参照

封じ込め及び浄化の方法及び機材

小規模漏出の場合	・少量の場合、ウエス、雑巾等でよく拭き取り適切な廃棄容器に回収する。その後、周辺を換気し、漏出場所を洗浄する
大規模漏出の場合	・漏出場所の風上から作業し、風上の人を退避させる。 ・十分に換気を行う ・漏出した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。 ・環境への悪影響が懸念されるため、河川等へ排出されないよう注意する ・大量の流出の場合は盛り土で囲い、流出を防止する ・漏出物をシャベルなどでかき集め、吸収材(砂、シリカゲル、おがくず等)に吸収させてください ・付着物、回収物は密閉式容器内に収集し、適切な産廃業者に委託して処分する

個人用保護具に関する情報については、セクション8をご参照ください

セクション7 取扱い及び保管上の注意

安全な取扱のための予防措置

安全取扱注意事項	・適切な工業基準に基づく安全対策を行い、適切な換気装置を設置してください ・裸火、日光から保護してください ・ミスト、蒸気の発生を防いでください
他の情報	情報なし

混触危険性を含む、安全な保管条件

適切な保管条件	・乾燥している換気の良い場所に保管してください ・直射日光の当たらない場所に保管してください
避けるべき保管条件	・熱、光、湿気に敏感です。 ・開封した容器は漏れを防ぐため、しっかりと密閉し立てて保管してください。 ・本製品は光と湿気に敏感です。

セクション8 ばく露防止及び保護措置

眼/顔面の保護	・飛び散る場合は安全ゴーグルを着用してください ・化学保護メガネを着用し、眼、皮膚への接触を避ける
皮膚の保護	以下の手/足の保護具を参照してください
手/足の保護	・化学用保護手袋（ニトリル製、ブチルゴム、フッ素ゴム製のもの）を着用し、皮膚への接触を避ける ・必要があればゴム製の安全靴、または安全長靴を着用すること ・綿または皮（樹脂を吸収および濃縮する）手袋は使用しないこと
身体の保護	適切な保護服を着用してください
他の保護	データ無し
呼吸器の保護	通常、呼吸器の保護は必要ありません 刺激を感じた場合は換気や避難が必要になります

セクション9 物理的及び化学的性質

物理的および化学的性質に関する基本情報

外観	透明な液体	蒸気密度 (大気 = 1)	データ無し
物理的状態	液状	比重 (水 = 1)	データ無し
臭い	化学薬品的な臭い	自然発火温度(℃)	データ無し
pH(製品)	データ無し	熱分解温度(℃)	データ無し
融点/凝固点(℃)	データ無し	粘度	4 Pa・s
沸点/沸騰温度(℃)	データ無し	分子量(g/mol)	データ無し
引火点	108 ℃(密閉カップ)	味	データ無し

蒸気圧(kPa)	データ無し	爆発性	データ無し
水溶解性	データ無し	VOC含有量	データ無し

セクション10 安定性及び反応性

反応性	セクション7 参照
化学的安定性	製品は安定しており、保管条件下では安定です
危険有害反応可能性	セクション7 参照
避けるべき条件	ヘリウム、紫外線、直射日光、裸火、火花から保護してください
混触危険物質	アミン、強酸化剤、強酸、強塩基、酸素除去剤
危険有害な分解生成物	セクション5 参照

セクション11 有害性情報

毒物学的影響に関する情報

急性毒性

成分名	CAS番号	経路	試験対象	毒性	出典	区分
メタクリル酸2-ヒドロキシエチル	868-77-9	経口	ラット	LD50: >4,000 mg/kg	※7	区分に該当しない
				LD50: 5,564 mg/kg		
				LD50: 5,050 mg/kg		
				LD50: 8,700 mg/kg		
				LD50: 11,200 mg/kg		
		経皮	ウサギ	LD50: >3,000 mg/kg	※17	区分に該当しない
アクリル酸イソボルニル	5888-33-5	経口	ラット	LD50: 4,890 mg/kg	※14	区分に該当しない
		経皮	ウサギ	LD50: >5,000 mg/kg	※14	区分に該当しない
2-[[3-(トリメトキシシリル)プロポキシ]メチル]オキシラン	2530-83-8	経口	ラット	LD50: 8,018 mg/kg	※14	区分に該当しない
				LD50: >5,345 mg/kg	※14	区分に該当しない
				LD50: 7,010 mg/kg	※7 ※19	区分に該当しない
				LD50: 8,400 mg/kg	※7	区分に該当しない
				LD50: 16,900 mg/kg	※7	区分に該当しない
		ラット(雄)	LD50: 24,159 mg/kg	※7	区分に該当しない	
		経皮	ウサギ	LD50: 6,800 mg/kg	※7	区分に該当しない
			ウサギ(雄)	LD50: 4,244 mg/kg	※7 ※19	区分に該当しない
		吸入: 粉塵及びミスト	ラット	LD50: 5.3 mg/L 4h	※7 ※19	区分に該当しない
		LD50: 2.7 mg/L 4h	※7	区分に該当しない		

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

成分名	CAS番号	データ	出典	区分
メタクリル酸2-ヒドロキシエチル	868-77-9	3件のウサギを用いた皮膚刺激性試験で、刺激性なし又は軽度の刺激性との報告から、区分外とした。	※7	区分に該当しない
アクリル酸イソボルニル	5888-33-5	ウサギの皮膚に500μLの量を適用した際に、中程度の刺激性があった	※14	区分2
2-[3-(トリメトキシシリル)プロポキシ]メチル}オキシラン	2530-83-8	ウサギを用いた皮膚刺激性試験において、軽度の刺激性がみられたが、14日間で完全に回復したとの報告がある。ウサギを用いた皮膚刺激性試験において、パッチ除去24及び48時間後に全例で紅斑がみられ、96時間持続したが、浮腫はみられなかったとの報告がある。	※7 ※19	区分に該当しない

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

成分名	CAS番号	データ	出典	区分
-----	-------	-----	----	----

メタクリル酸2-ヒドロキシエチル	868-77-9	ウサギを用いた眼刺激性試験で中等度の刺激性との記載や、別のウサギでの試験で角膜の潰瘍と肥厚が生じたが15日後には軽度の角膜障害の1匹を除いて回復して本物質は強い刺激性を示したとの記載がある。また、試験動物種は不明だが、本物質の適用で角膜傷害が7日以上残り中等度から強度の刺激性を示したとの記載がある。よって、区分2とした。	※7 ※17	区分2
アクリル酸イソボルニル	5888-33-5	ウサギの目に100μLの量を適用した際に、軽度の刺激性があった	※14	区分2A
2-[[3-(トリメトキシシリル)プロポキシ]メチル]オキシラン	2530-83-8	ウサギを用いた眼刺激性試験において、2例で角膜バンスがみられ、角膜の一部を覆うような混濁が21日間持続したとの報告がある。ウサギを用いた眼刺激性試験において、全例で刺激性が認められ、うち4例の影響は眼に対する重度の刺激性、損傷性がみられたとの報告がある。	※7 ※19	区分1

呼吸器感受性または皮膚感受性

成分名	CAS番号	データ	出典	区分
メタクリル酸2-ヒドロキシエチル	868-77-9	本物質を扱うことにより接触性皮膚炎を発症した歯科技工士、及び本物質の80%溶液を扱う実験技術者がパッチテストで本物質に対して陽性であったとの報告や、電子顕微鏡包埋剤やソフトコンタクトレンズ製造者が本物質に感作された事例の他に複数の事例の記載がある。モルモットを用いた皮膚感受性試験では、陽性と陰性の試験結果が複数報告されている。これらの結果から本物質は感受性を有すると考え、区分1とした。	※7	区分1(皮膚感受性)

生殖細胞変異原性

成分名	CAS番号	データ	出典	区分
メタクリル酸2-ヒドロキシエチル	868-77-9	in vivoでは、ラットの骨髄細胞を用いた小核試験で陰性、in vitroでは、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験で陰性である。	※7 ※16 ※17	区分に該当しない
2-[[3-(トリメトキシシリル)プロポキシ]メチル]オキシラン	2530-83-8	マウスを用いた骨髄小核試験において陰性および陽性の報告がある。なお、本物質は速やかに加水分解される。ラットを用いた遺伝毒性試験において陽性の報告がある。細菌を用いた復帰突然変異試験において陽性の報告がある。ほ乳類培養細胞を用いた遺伝子突然変異試験において陽性および陰性の報告がある。In vitro姉妹染色分体交換試験において陽性の報告がある。	※7 ※19	区分2

発がん性

成分名	CAS番号	データ	出典	区分
2-[[3-(トリメトキシシリル)プロポキシ]メチル]オキシラン	2530-83-8	マウスの生涯経皮投与試験で、雄マウスに本物質とアセトン溶液を生生涯経皮ばく露し、本物質のばく露に関連した腫瘍発生率の増加はみられなかった。ただし、本試験は1用量のみの試験で投与量も比較的低いと指摘されている	※7	区分に該当しない

生殖毒性

成分名	CAS番号	データ	出典	区分
メタクリル酸2-ヒドロキシエチル	868-77-9	ラットを用いた強制経口投与による試験において、生殖発生影響は認められなかった。	※7	区分に該当しない
2-[[3-(トリメトキシシリル)プロポキシ]メチル]オキシラン	2530-83-8	ラットを用いた強制経口投与による一世代生殖毒性試験において生殖毒性がみられなかったとの報告がある。ラットを用いた発生毒性試験においては発生毒性がみられなかったとの報告がある。ラットを用いた発生毒性試験において親動物に体重増加抑制、摂餌量減少、諸症状がみられたが、児動物には軽微な影響のみがみられたとの報告がある。ウサギを用いた強制経口投与による発生毒性試験において、発生毒性がみられなかったとの報告がある。	※7 ※19	区分に該当しない

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

成分名	CAS番号	データ	出典	区分
メタクリル酸2-ヒドロキシエチル	868-77-9	ラットの単回経口投与試験において、投与後に用量依存性の活動性低下、振戦、協調運動性障害、歩行異常、四肢筋肉の緊張低下、体温上昇、立毛が認められたが、生存動物ではその後、完全に回復したとの報告がある。症状からは中枢神経系への影響が考えられるが、区分2超の用量でみられているため、分類できないとした。	※7	分類できない

2-{[3-(トリメトキシシリル)プロボキシ]メチル}オキシラン	2530-83-8	ラットを用いた単回吸入(ミスト)ばく露試験において、ばく露後に流涙、乾性/湿性ラッセル音、鼻からの分泌物、肛門生殖器部位の黄色汚染等の症状が用量相関的に見られたとの報告がある。	※7 ※19	区分3(気道刺激性)
----------------------------------	-----------	--	--------	------------

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

成分名	CAS番号	データ	出典	区分
メタクリル酸2-ヒドロキシエチル	868-77-9	ラットを用いた強制経口投与による反復投与毒性・生殖発生毒性併合試験において、区分2のガイダンス値の範囲内で尿素窒素の増加傾向あるいは増加、腎臓の相対重量増加がみられている。なお、腎臓の病理組織学的所見は、区分2のガイダンス値の範囲を超える雄においてのみ尿細管拡張・集合管拡張がみられている。以上、みられた影響については分類根拠としては不十分であったため、分類できないとした。	※7	分類できない
2-{[3-(トリメトキシシリル)プロボキシ]メチル}オキシラン	2530-83-8	ラットを用いた強制経口投与による4週間経口投与試験において影響がみられなかったとの報告がある。ラットを用いた2週間吸入ばく露試験において呼吸器症状が体重減少、死亡ないし切迫屠殺されたとの報告がある。	※7 ※19	区分に該当しない

GHS分類判断

急性毒性	×	発がん性	×
皮膚腐食性／刺激性	✓	生殖毒性	×
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	✓	吸引力呼吸器有毒性	×
呼吸器感受性または皮膚感受性	✓	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	✓
生殖細胞変異原性	✓	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	×
× - データ無し(分類できない)、または区分に該当しない			
✓ - 分類済み			

セクション12 環境影響情報

生態毒性

成分名	CAS番号	エンドポイント	試験期間 (時間)	生物種	試験結果	出典 / 区分
メタクリル酸2-ヒドロキシエチル	868-77-9	ErC50	72h	藻類または他の水生植物	710 mg/L	※16 区分外
		LC50	96h	魚類	100 mg/L	※16 区分外
		LC50	96h	魚類	227 mg/L	※1 区分外
		EC50	48h	甲殻類	380 mg/L	※16 区分外
アクリル酸イソボルニル	5888-33-5	ErC50	96h	甲殻類	2.7 mg/L	※1 区分2
		LC50	96h	魚類	1.8 mg/L	※1 区分2
		EC50	48h	藻類または他の水生植物	1.1 mg/L	※1 区分2
2-{[3-(トリメトキシシリル)プロボキシ]メチル}オキシラン	2530-83-8	LC50	96h	魚類	55 mg/L	※7 区分3
		NOEC	21d	甲殻類	100 mg/L	※7 区分外

残留性・分解性

成分名	CAS番号	残留性	分解性	出典
データ無し				

生体蓄積性

成分名	CAS番号	生物濃縮性	出典
メタクリル酸2-ヒドロキシエチル	868-77-9	低 (LogKOW : 0.47)	※1
2-{[3-(トリメトキシシリル)プロボキシ]メチル}オキシラン	2530-83-8	低 (LogKOW : -0.854)	※1
LogKOW(オクタノール/水分配係数)			

土壌中の移動性

成分名	CAS番号	移動性	出典
データ無し			
KOC(分配係数)			

セクション13 廃棄上の注意

廃棄方法	
製品/容器/包装の廃棄方法	・廃棄する場合は廃棄物の処理を管理している都道府県・市区町村に問い合わせること

セクション14 輸送上の注意

陸上輸送(ADG):	危険物輸送規制対象外
航空輸送(ICAO-IATA / DGR):	危険物輸送規制対象外
海上輸送(IMDG-Code / GGVSee):	危険物輸送規制対象外
MARPOL 付属書Ⅱ 及び IBCコードによるばら積み輸送:	該当しない
MARPOL 付属書Ⅴ 及び IMSBCコードに従い、バルク輸送:	データ無し
ICG規範に従い、バルク輸送:	データ無し

セクション15 適用法令

労働基準法			
該当成分名	CAS番号	該当項目	備考
メタクリル酸2-ヒドロキシエチル	868-77-9	名称等を表示すべき危険有害物	法第57条、施行令第18条別表第9
		名称等を通知すべき危険有害物	法第57条の2、施行令第18条の2別表第9
		感作性を有するもの	法第75条第2項 施行規則第35条別表第1の2第4号 (平8労基局長通達 基発第182号)
		疾病化学物質	法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号1
2-〔3-(トリメトキシシリル)プロポキシ〕メチル〕オキシラン	2530-83-8	皮膚等障害化学物質	労働安全衛生規則第594条の2

化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律			
該当成分名	CAS番号	該当項目	備考
メタクリル酸2-ヒドロキシエチル	868-77-9	旧第2種監視化学物質	旧法第2条第5項
2-〔3-(トリメトキシシリル)プロポキシ〕メチル〕オキシラン	2530-83-8	第一種指定化学物質	法第2条第2項 施行令第1条別表第1 【344 トリメトキシ-〔3-(オキシラン-2-イルメトキシ)プロピル〕シラン】

消防法			
該当成分名	CAS番号	該当項目	備考
メタクリル酸2-ヒドロキシエチル	868-77-9	第4類 引火性液体 第三石油類 水溶性液体	法第2条第7項危険物別表第1
アクリル酸イソボルニル	5888-33-5	第4類 第三石油類 危険等級Ⅲ 非水溶性	法第2条第7項危険物別表第1
2-〔3-(トリメトキシシリル)プロポキシ〕メチル〕オキシラン	2530-83-8	第4類 引火性液体 第三石油類 非水溶性液体	法第2条第7項危険物別表第1

セクション16 その他の情報

出典元

- ※1 製造者のSDSから得られた値
 - ※2 CERI/ハザードデータ集 / 化学物質評価研究機構(CERI)
 - ※3 ECHA登録物質/欧州化学物質庁(ECHA)
 - ※4 JACC(Joint assessment of commodity chemicals) Report / ECETOC(欧州化学物質生態毒性及び毒性センター)
 - ※5 Patty's Toxicology
 - ※6 EPIWON(WHO Information Network for Epidemics Suite)
 - ※7 SIDS(Screening Information Data Set) / OECD(経済協力開発機構)
 - ※8 CICAD(国際化学物質簡潔評価文書)
 - ※9 IARC(国際がん研究機関)
 - ※10 IUCLID(国際統一化学物質情報データベース)
 - ※11 ACGIH(米国産業衛生専門家会議)
 - ※12 IRIS(Integrated Risk Information System) / 米国環境保護庁(EPA)
 - ※13 ECOTOX(Ecotoxicology Database) / 米国環境保護庁(EPA)
 - ※14 RTECS(Registry of Toxic Effects of Chemical Substances) / 米国国立労働衛生研究所(NIOSH)
 - ※15 JSOH(日本産業衛生学会)
 - ※16 NITE(製品評価技術基盤機構)
 - ※17 DFGOT(化学物質の産業衛生に関する評価文書) / ドイツ学術振興会(DFG)
 - ※18 GESTIS(有害物情報データベース) / ドイツ同業者労災保険組合
 - ※19 REACH(EU 化学物質の登録、評価、認可及び制限に関する規則)登録情報
 - ※20 NTP(National Toxicology Program) / アメリカ合衆国保健福祉省(HHS)
 - ※21 JFCFA(FAO/WHO Joint Expert Committee on Food Additives) / 食品添加物専門家会議
 - ※22 HSDB(Hazardous Substances Data Bank) / 米国国立医学図書館(NLM)
- 出典元 / 作成者

最初の発行日

08/31/2020

SDS/バージョンの概要

バージョン	改訂日	更新されたセクション
2.12.2.1	04/26/2021	規制の変更
2.12.3.1	05/13/2021	規制の変更
2.12.3.2	12/28/2022	分類, 環境, 成分, 品名
2.12.3.3	01/20/2023	成分
3.00.0.1	10/01/2025	フォーマット整理、成分名を変更(NITE基準)

免責事項 :

この安全データシート(SDS)の情報は発行時における当社の入手可能な情報に基づいて正しいものであると考えております。記載されている情報は安全な取り扱い、使用、保管、輸送、および廃棄のためのガイダンスとしてのみ設計されており、保証、品質仕様とはみなされません。使用から生じる損失、損害または傷害に関する賠償責任を引き受ける物ではありません。本SDSの記載内容は指定された特定の材料のみに関連しており、記載されている範囲外の使用、あるいは他の物質との組み合わせでの使用においては有効ではない場合があります。これらの理由からお客様がご自身の用途に製品が適合しているかご自身で評価、判断頂く事が重要です。